

光  
の  
中  
で

井  
上  
弘  
子

はじめに

この度、思いがけなく、日本クリスチャン・ペンクラブのお仲間に入れていただき、心から感謝申し上げます。

皆様の文章を読ませていただき、自分の無力さが分かり悲しくなりますが、教えていただきながら拙い歩みを始めたいと思いました。

自分史については、過去の悲しみ、痛みの傷が新しくなるのがつらく、思い出すのを封印してきました。何十年もの間、苦しみから逃げずに試練に耐えたことが神様とのつながりをより身近にし、強めたように思います。

神様がお造りになった人だからと、赦すことを、また愛する事を努力して訓練し、その積み重ねがいつしか自分の性格まで変えていったことに気づき、神様に大きな感謝を献げ、神様の偉大さに驚かされています。

マタイによる福音五章四六節の中にある、『自分を愛してくる人を愛したところで、どんな報いがあるか・・・』は、私の生涯の心の烙印です。

俳句を作るきっかけは、子供の頃に、俳句は見たものを五七五に書けば良いと、母が教えてくれたので、作ってみては当時の中学生新聞に投稿したのが始まりです。また、母は自分では作りませんでした。が、囲炉裏を囲みながら兄弟四人に、自由題で俳句を作らせたりして楽しんでいました。

高校生の頃は、終戦後海外から地元に戻った開業医が高浜虚子と知り合いだったらしく、数人の中高年の人が集まり俳句会をしており、私も誘われて月一回通っていました。この会には時に、高野素中という先生が来て指導していたようです。

結婚してからは止めてしまい、かなりの年月が経ちました。

東日本大震災の後、娘のところに避難してきましたが、やはり震災の影響で埼玉県に避難してきた弟が、加須市の俳句同好会に参加するようになり、誘ってくれたのをきっかけに、月一回発行の俳誌に七年ほど投稿を続けて、研鑽を積んでいるところです。

満ち足りし 如く暮れゆく 春野かな

菖蒲湯に 姉と語らう 朝の宿

咲き満ちて たわむ小枝や 雪柳

たんぽぽや 白雲 翼広げけり

初採りの露や 翡翠に茹で上がる

復活祭　デイズニーランドの　パレードも

うぐいすの声澄む　無人となりし里

白梅に　紛れて消えし　昼の月

まだ若き　太古夢見る　葡萄かな

湯たんぽや　脚登りくる　眠りかな

外人に 身振り通じし 夏の風邪

幾千の 種を残して 諸葛菜

青ぬたや 八十までも生かされて

付き添いに 埋もれて 子供神輿かな

中空に 静止一瞬 夏つばめ

干し物の 皴伸ばし行く 若葉風

無花果の 無き枝切ると 聖書かな

ベランダに 束の間の友 赤とんぼ

木立抜け そつと涼しさ通りけり

柔らかに 辛夷埋めたる 街の空

桜どき 流れゆたかに 神田川

梅雨晴れや 裁ききれない スケジュール

白雲のちぎれきしごと 花辛夷

満月の 朝も光りて イースター

朝に掃き 夕べに掃きて 夏落葉

桐咲きて 那須の山より 通り雨

出そろいし 露を一先ず 伽羅露に

コンビニの 灯の親しさよ 皐月闇

鳴き出でし 蝉に気迫を もらひけり

身を見せて 唐黍重ね 道の駅

牽牛花 陽に近くとて 蔓競う

ミモザ咲き 人影見えぬ 能楽堂

涌く如き 青葉分けゆく 東北道

はじかみや 育てし孫と 保つ距離

隅田川 花火果てたる 月の色

車椅子 白衣押し行く 夏木立

ビルの谷 名月白くのぼりおり

新松子 安達太良山の 頂きに

木犀や 夜更けも絶えぬ 靴の音

秋の灯に 耳飾り揺れ セロのひと

降誕祭 背丈伸びしか 天使役

烏瓜 夕陽の色と なりにけり

クリスマス リース外すや 鈴揺らし

枯野原 スーパームーン 通り行く

銀杏掃く 作業に見入り バスを待つ

雀らに 集う木はあり 初時雨

気象図に 枯葉も飛ばす テレビかな

桧原湖を 見下ろし揃う 花芒

寒風の 磨き鏡と なりし月

葉を落とし 清しき元の 樹となりぬ

菓子配る 我は魔女かも ハロウィン

鰯雲 イルカの群れに 育ちけり

白木槿 雨を弾きて 咲きにけり

冬木立 無数の星の 飾りかな

夕雲の彼方に 延びる 冬野かな

お隣の 外人からも 賀状来し

枯蓮や 風の便りに訃報知る

笛の音の ひときわ高し 初神楽

消え残る雪は 巷の色となり

雪止まず 野菜多めに ポトフ炊く

## 愛唱聖句

\*箴言三章 五〜六節

心を尽くして主に信頼し、自分の分別には頼らず常に主を覚えてあなたの道を歩け。そうすれば主はあなたの道筋をまっすぐにしてくださる。

\*マタイによる福音書 二十五章十三節

だから、目を覚ましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないのだから。

\*テサロニケの信徒への手紙一 五章十六〜十八節

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。

## 愛唱さんび歌

\*救世軍歌集八十五番      とうとき主イエスよ祈るわれらに

\*救世軍歌集九十八番      さまようひとびと